

令和 7 年 7 月 24 日

宮城県議会議長 高橋 伸二 殿

宮城県議会議員

代表者（議員） 菊地 恵一

海外行政視察報告書

このことについて、下記のとおり海外行政視察を終了したので報告します。

記

- 1 期 間 令和7年4月22日から令和7年4月28日まで（7日間）
- 2 視 察 地 台湾 台北市、台南市、高雄市 香港
- 3 構成議員 菊地 恵一、遠藤 隼人、杉原 崇、菊地 忠久、吉川 寛康
- 4 調査目的
 - ・台湾との教育旅行等による相互交流の促進を図り、青少年の健全育成や多文化共生の理解の促進と宮城県へのインバウンドの誘客促進に資するため。
 - ・宮城県との包括協定を結ぶパン・パシフィック・インターナショナルホールディングス（PPIH社）の香港現地法人であるパン・パシフィック・リテールマネジメント社を訪問し、今後の連携について意見交換を行い国際的な宮城県のPRに資するため。
 - ・台湾、香港の観光政策を調査して、宮城県からのアウトバウンドに資するため。
- 5 事前研修等の実施状況、調査結果および得られた成果並びに県政への反映方法、具体的な視察調査の結果は別添報告書のとおり

宮城県議会 台湾・香港 海外行政視察

報 告 書

令和 7 年 7 月

目 次

1. はじめに

宮城県議会 台湾・香港 視察団長 菊地 恵一

2. 視察調査について

- ① 視察調査目的
- ② 視察調査地域
- ③ 視察調査団員名簿
- ④ 事前研修
- ⑤ 視察調査日程

3. 視察調査の概要

- ① ホテルメトロポリタンプレミア台北
- ② 中華民国総統府
- ③ 台北市議会
- ④ 圓山大飯店
- ⑤ 台北市政府教育局
- ⑥ 宮城県キャリアサポートセンター台湾
- ⑦ 台北市立大安高級工業職業学校
- ⑧ 台北市政府教育局主催夕食意見交換会
- ⑨ 国立台南家齋高級中学校
- ⑩ 台南市台日文化友好交流基金会
- ⑪ 台南市議会
- ⑫ 台南市議会議長主催夕食意見交換会
- ⑬ 高雄市立高雄女子高等学校
- ⑭ 縦横游有限公司（パッケージツアー社）
- ⑮ 縦横游有限公司（パッケージツアー社）との夕食意見交換会
- ⑯ パン・パシフィック・リテール・マネジメント社
- ⑰ 香港経済新聞社（コンパスコミュニケーションズインターナショナル）
- ⑱ 黄大仙廟
- ⑲ 香港故宫文化博物館
- ⑳ 星光大道（アベニュー・オブ・スターズ）
- ㉑ Blue Asia 社との意見交換会
- ㉒ 幻彩詠香江（シンフォニー・オブ・ライツ）

4. 資料

1. はじめに

宮城県議会 台湾・香港 視察調査団長 菊地 恵一

本県では、近年、台湾・香港との教育旅行や地域間交流、県産品の海外販路拡大に取り組み、相互交流人口の拡大を図ってまいりました。

令和6年度には台湾の台北市政府教育局および台湾高級中等以下学校国際教育交流連盟との間で「教育旅行に関する覚書」を締結し、約100名の校長団を招請した教育旅行体験事業を実施するなど、交流を積み重ねております。その結果、台湾からは本年度30校・約700人の生徒受入を見込み、来年度は40校・2,000人を目標として強力な誘致を進めています。

また、宮城県産品の海外販路拡大についても、香港のパン・パシフィック・リテール・マネジメント社と連携し、県産イチゴや日本酒の販売促進、観光PR活動を実施するなど、多方面にわたり成果を上げています。

一方で、令和6年1月～11月における外国人延べ宿泊者数の全国シェアを見ると、東北6県は1.5%、宮城県は0.5%にとどまり、インバウンド誘客拡大が大きな課題です。また、仙台空港を発着するアウトバウンドの利用は依然として少なく、台湾・香港への定期便が充実する中、さらなる利用促進が求められています。

このような背景を受け、本視察団は、観光政策や教育旅行の推進、地域間交流、県産品輸出促進について現地の状況を直接調査して今後の県政における施策推進のための提言に資することを目的に、令和7年4月22日から28日の7日間、台湾（台北市・台南市・高雄市）及び香港を訪問しました。本視察では、教育旅行関連機関との意見交換、観県産品販路拡大の取組状況の確認、観光資源の現地調査、などを行い、多くの示唆を得ることができました。ここにその概要と成果を報告いたします。

2. 視察調査について

① 視察調査目的

1. 教育旅行による相互交流の促進

台北市、台南市、高雄市の教育機関や自治体を訪問し、既存の交流事業の成果を確認するとともに、新たな交流やプログラムの具体化について意見交換。

2. 地域間交流の強化

台南市台日文化友好交流基金会や市議会を訪問し、地域間交流の今後の展望について意見交換し展望を共有。

3. 観光施策の研究とイン・アウトバウンド拡大

台湾・香港における歴史的建造物やランドマークを実地調査し、宮城県の観光施策に応用できる手法や素材を模索。

4. 県産品輸出拡大と販路開拓

PPIH 社など販路拡大に寄与する現地企業との意見交換を通じ、販売促進や PR 戦略について知見を得る。

② 視察調査地域

- ・台湾（台北市、台南市、高雄市）
- ・香港（九龍半島・香港島ほか）

③ 視察調査団員名簿

氏名	役割	担当調査先
菊地 恵一	団 長	全体統括、各視察先調整
遠藤 隼人	団 員	ホテルメトロポリタンプレミア台北、中華民国総統府、台北市議会、圓山大飯店
菊地 忠久	団 員	宮城県キャリアサポートセンター、台北市立大安高級工業職業学校、台北市政府教育局主催夕食意見交換会、国立台南家齊高等学校、台南市台日文化友好交流基金会、台南市議会、台南市議会議長主催夕食意見交換会
杉原 崇	団 員	高雄市立高雄女子高等学校、縦横游有限公司、同社意見交換、PPIH 社、香港経済新聞社
吉川 寛康	団 員	黄大仙廟、香港故宮文化博物館、星光大道、Blue Asia 社意見交換、幻彩詠香江

④ 事前研修

- 2月21日 視察団構成議員団による情報交換会
- 2月27日 視察団構成議員団による情報交換会
- 3月 7日 台湾と宮城県の教育旅行の現状について
(講師：経済商工観光部観光戦略課)
(講師：宮城県教育委員会高校教育課)
- 3月12日 P P I Hによる本県のプロモーションについて
(講師：経済商工観光部国際ビジネス推進室)
- 4月11日 台湾訪日旅行誘致促進の取組について
(講師：経済商工観光部観光戦略課)

⑤ 視察調査日程

日 時		訪問先（交通手段）	調査事項・備考
4/22 (火)	8:57	仙台駅 発（新幹線）【はやぶさ 8 号】	
	10:33	東京駅 着	
	11:30	羽田空港 着	
	13:20	羽田空港 発 【NH853 便】	
	15:50	台北松山空港 着 空港→ホテル（専用車）	
	16:50	ホテルメトロポリタン台北 着	日本からのアウトバウンド関連調査
		【台北市 泊】	
4/23 (水)	9:00	ホテル 発（専用車）	
	9:30	中華民国総統府	観光関連調査
	10:00	視察先→視察先（専用車）	
	10:30	台北市議会（70分） 台北市役所（台北市政府教育局）	地域間交流調査 教育旅行関連調査
	11:40	視察先→昼食先（専用車）	
	12:10	圓山大飯店（昼食）	
		『観光スポット「秘密のトンネル」視察』	観光関連調査
	13:30	昼食先→視察先（専用車）	
	13:50	台北市役所（台北市政府教育局）	教育旅行関連調査
	14:40	視察先→視察先（専用車）	
	15:00	宮城県キャリアサポートセンター台湾	留学支援調査
	15:40	視察先→視察先（専用車）	
	16:00	台北市立大安高級工業職業学校	教育旅行関連調査
	17:00	視察先→視察先（徒歩3分）	
	17:30	夕食意見交換会 悦華軒	教育旅行関連調査
	19:30	視察先→ホテル（専用車）	
		【台北市 泊】	
4/24 (木)	8:00	ホテル 発	
	8:46	台北駅（台湾高鉄）発 【BY615 便】	
	10:32	台南高鉄駅 着	
		台南高鉄駅→視察先（専用車）	
	11:30	国立台南家齊高等学校	教育旅行関連調査
	12:00	視察先→昼食先（専用車）	
	12:15	（昼食）	昼食先→視察先（専用車）
	14:30	台南市台日文化友好交流基金会 郭董事長	教育旅行関連調査 地域間交流関連調査
	15:00	視察先→視察先（専用車）	
	16:00	台南市議会	地域間交流調査
	17:00	市議会→夕食先（専用車）	
	17:30	台南市議会議長主催夕食意見交換会 漢來名人坊	教育旅行関連調査 地域間交流関連調査
	19:30	夕食先→ホテル（専用車）	
		【台南市 泊】	

4/25 (金)	8:00	ホテル 発 (専用車)	
	9:30	高雄市立高雄女子高等学校	教育旅行関連調査
	10:30	視察先→空港 (専用車)	
	11:00	高雄空港到着	
	13:15	高雄国際空港 発 【CX423 便】	
	15:05	香港国際空港 着 空港→視察先 (専用車)	
	17:00	縦横游有限公司 (PKG ツアー社)	インバウンド関連調査
	18:00	視察先→夕食先 (専用車)	
	18:30	PKG ツアー社と夕食意見交換会 海天薈	インバウンド関連調査
	20:30	夕食先→ホテル (専用車)	
4/26 (土)		【香港島内 泊】	
	9:30	ホテル 発 (専用車)	
	10:00	PPRM (DON DON DONKI)	県産品輸出関連調査
	11:30	視察先→昼食先 (専用車)	
	12:00	香港経済新聞社による説明 翠亨屯〈昼食〉	観光政策関連調査
	13:30	昼食先→視察先 (専用車)	
	13:45	黄大仙廟	観光政策関連調査
	14:30	視察先→視察先 (専用車)	
	15:00	香港故宫文化博物館	観光政策関連調査
	16:30	視察先→視察先 (専用車)	
	16:50	星光大道	観光政策関連調査
	17:30	視察先→視察先 (専用車)	
	17:40	BlueAsia と意見交換会 神燈	観光政策関連調査
	19:40	視察先→視察先 (専用車)	
	20:00	幻彩詠香江	観光政策関連調査
4/27 (日)	20:40	視察先→ホテル (専用車)	
	21:00	【香港島内 泊】	
	12:00	ホテル 発 (専用車)	
	14:45	香港国際空港 発 【NH860 便】	
	20:00	羽田空港 着	
4/28 (月)	22:00	ホテル着	
		【東京都内 泊】	
	9:10	ホテル→東京駅	
	9:50	東京駅 着	
	10:18	東京駅 発 (新幹線) 【はやぶさ 15 号】	
	11:53	仙台駅 着	

3. 視察調査の概要

◎視察 1 日目

(1) ホテルメトロポリタンプレミア台北

- ・日時：令和 7 年 4 月 22 日（火）17 時～18 時
- ・会場：ホテルメトロポリタンプレミア台北
- ・応対者：渡邊満社長、山本寛管理部長、友田英則営業部マネージャー
- ・調査内容：台北における日本からのアウトバウンドについて

今回訪問したホテルメトロポリタンプレミア台北は、台北市中山区に位置しており、2021 年 8 月に開業した。もともとウエスティン台北が使用していた建物を改装したものであり、JR ホテルグループにおいて運営する初の海外支店である。オープン後からコロナ禍に苦しんだが、現在はやっとコロナ前の約 80%を超えるまでに回復した。宿泊者の国籍について、1 番多いのは日本人で約 40%。次に地元の台湾人が 40%、アメリカ人が約 10%であり、他の香港、韓国、シンガポール、中国が合わせて 10%。更に何うと宿泊者の約 6 割がビジネス利用であり、年齢層は 40 代～60 代が多い。繁忙期は年末年始で日本人観光客が占める。半導体イベントのある 5 月も忙しく、東北遊楽日によって 12 月も忙しいとの事であった。

台湾全体のインバウンドについては日本、韓国、香港からの観光客がほぼ同数でコロナ前と比べると約 70%まで戻った。以前ほど回復しない理由としては、やはり円安により日本人観光客が戻らないこと。そして民進党の政権になったことで中国大陆からの観光客が激減したことが大きい。

2024 年の台湾から日本への観光客数は約 600 万人であるが、日本から台湾への観光客は約 130 万人であった。台湾の人口は 2023 年で約 2342 万人と日本よりはるかに少ないことを考えると大変な数が日本に訪れている。理由を何うと台湾は日本という九州程度の広さにこの人口が住んでいるため旅行と言えば海外であるとのマインドがそもそもある。



台湾の方が好む旅行コンテンツは代表的なものは雪、温泉であり我が県にとって相性がいいと考える。さらに、野球を愛する国民性であることや、台湾には楽天モンキーズがあるため、東北楽天ゴールデンイーグルスが仙台に本拠地を置いている事をもっとアピールをすることが必要ではないかと意見を頂いた。

具体的なホテル側からの提案として、このメトロポリタンプレミア台北において、宮城フェア等を開催することが出来れば、宮城県のインバウンド需要に直接

影響を及ぼし、また、台湾の富裕層に対して、わが県が誇る産品を知っていただき、販路開拓にもつながるのではないかとのお話があった。実際に福井県の特産品紹介や福井県的美食コース造成、福井県フェアを2025年3月1日～3月31日まで開催した事例を紹介いただいた。是非、議会としてもこの事を提案していくべきとの思いをもった。

◎視察2日目

(2) 中華民国総統府

- ・日時：令和7年4月23日（水）9時10分～10時
- ・場所：中華民国総統府
- ・対応者：現地ランドオペレーター 林耀宗氏
- ・調査内容：観光・教育コンテンツとしての中華民国総統府について

台湾総統の職場である中華民国総統府は元々1895年から1945年まで続いていた日本統治時代に台湾総督府として建てられたものであり、1919年には完成した。設計した建築家は長野宇平次であり、ルネサンス様式が特徴的な建築物である。1949年に中華民国政府が台湾に移転し総統府としての使用が始まった。現在は2024年1月の選挙において当選した頼清徳氏が、2024年5月に総統に就任した。総統と副総統の職務を支援する幕僚機関として秘書室、国家安全局、儀典局等の3局3室から構成されている。建物は2100坪の総床面積で辰野式デザインと言われる設計で、中央に60メートルの高塔がある。



この歴史上大変意義のある台湾総統府を観光資源として活用していることについて大変素晴らしいと感じた。団体でなく個人の観光客は、一般的な観光地よりもその地域における独特な文化や生活について興味関心を持っているため、有用なコンテンツであると思う。

活用法としては、平日ツアーとして月曜～金曜の9:00～11:30まで見学が可能となっている。このほ



か総統府で宿泊体験も国際旅行者向けに実施実績があるとのことであり、自国の歴史と文化を観光コンテンツとして磨き上げる意思を感じた。

展示における説明は、歴代の総統を映像や公文書を通じて分かりやすいものだった。

台湾における二・二八事件における弾圧についてなど、現在の民主化がどのように成し得たものかという事も分かりやすく見る事ができた。震災時に

我が県に対しても多大な寄付を台湾の皆様から頂き感謝していたが、よりその歴史を知ること、日本と台湾の深い関わりを理解することができた。我が県においても歴史や文化をコンテンツとして磨き上げることの必要性を強く感じた。

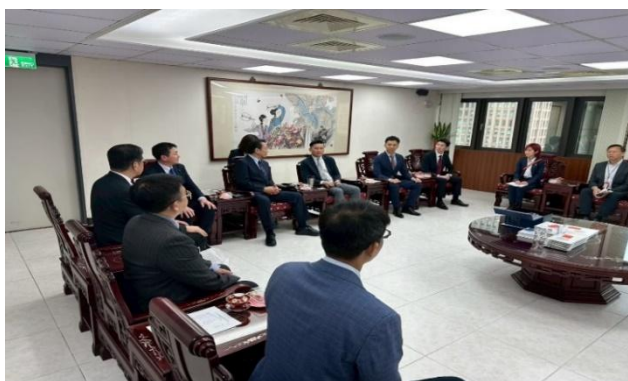
(3) 台北市議会表敬訪問

- ・日時：令和7年4月23日（水）10時30分～11時40分
- ・場所：台北市議会
- ・対応者：台北市議会 戴錫欽議長、洪樹林秘書長、王天勇主任
台北市政府教育局 鄧進權副局長、各校長等
- ・調査内容：宮城県と台北市の交流推進について

台北市議会に伺い戴錫欽議長との意見交換並びに議場の見学をさせていただいた。

台北市議会は6選挙区、2原住民選挙区から平地、山地の原住民各1名ずつを含む61名の議員で構成される。特筆すべきは女性議員の多さであり、地方制度法により4人以上の選挙区には女性議員を1人選出し、議員定数が4人を超える場合は4人増えるごとに女性議員の数を1人ずつ増員することが定められており今期も30名の女性議員が在籍している。議員の任期は4年間である。定例会は6カ月に1回招集され、会期は70日間で、委員会は民政、財政建設、教育、交通、警政衛生、工務、法規の7つが常任委員会として設置されている。

意見交換においては、日本の横浜市と姉妹都市提携を2006年に締結した話があった。また、姉妹都市とは違うが、宮城県教育厅と台北市で一年前に締結した教育旅行における覚書について、とても喜ばしく思っており、この一年で多くの学生が宮城県から台湾を訪れていることに対して議長の立場からの御礼と、これからさらに相互に学生たちを送りながら文化的な交流を深めていきたいとの期待も示された。



た。その流れで、これまでの宮城県議会と高級中等以下学校国際教育連盟との継続した交流が、その覚書締結に大きく寄与したことへの感謝をいただいたことに加えて、今後は台北市議会と宮城県議会の交流、特に教育旅行について興味関心の深い議員の交流についての提案もいただいた。

この提案を含め多くの有益な意見交換ができた。主に今回の議会側視察メンバーが役員を務める教育旅行等推進議員連盟において、台湾でも日本でも交

流を重ねてきた結果が正式に認められた。

（４）圓山大飯店

- ・日時：令和 7 年 4 月 23 日（水）12 時 10 分～13 時 30 分
- ・場所：圓山大飯店
- ・対応者：田中弘 広報部長
- ・調査内容：アウトバウンドの推進等観光関連について

圓山大飯店は 1952 年に設立し 1973 年には現在のメインの建物が完成。台北市内の観光施設からのアクセスが良く 5 つ星ホテルとして運営されている。500 以上の客室を有し 4 つのレストランが併設。イベントや会議の開催地としても地域で活用されているとのこと。

1949 年に蒋介石が台湾に撤退した当時は台北にホテルが不足していたこともあり外国要人の接待の為に建設された。

元々は日本統治時代の台湾神社の遺跡後に蒋介石の妻である宋美齡が提案したとのことで、この歴史的な背景がこのホテルの価値を底上げしているように感じた。建築としては中国の伝統的な宮殿様式を用いており大変華やかな印象を受けた。87 メートルは中国古典建築の中で最も高い建物の一つであり赤い柱や金色の屋根、龍、獅子等のモチーフが印象的。



ホテルの地下には戦争中に作られた防空壕がありそちらも視察させていただいた。このトンネルは

1973年に完成したもので、外交要人や蒋介石のための脱出路として設計され、シェルターの機能も持っていたとのこと。現在は観光向けに公開され2019年から人気の観光スポットとなっている。やはりこの場所においても歴史的な背景を感じさせる建築物を上手く観光に活かしていると感じた。

この視点は我が県においての観光政策にも必要であると感じた。体験型で歴史的背景を感じさせる今のトレンドに合うものと思う。



(5) 台北市政府教育局

- ・日時：令和 7 年 4 月 23 日（水）13 時 50 分～14 時 40 分
- ・場所：台北市役所
- ・対応者：台北市政府教育局 鄧進權副局長、李琪惠 職業教育課長、各校長等
- ・調査内容：教育旅行を通じた相互交流について

会談の冒頭で台北市の教育旅行受け入れの PR 動画を視聴した。動画では以下の内容がまとめられていた。①台北市は国際化が進んだ都市であり、体験型学習プログラムを通じて本場の食文化、ファッション、住環境、交通などを体験可能。②アジアで最も安全な首都の一つであり、100 年以上の歴史を持つ名門校や特色ある授業を展開する学校が多数存在する。③知育・食育・体育・徳育など多様な教育プログラムに対応可能である、などである。結びに、台北で過ごす時間が貴重な学びの機会となるとのことが強調され「ともに学びの交流の扉を開きましょう」というメッセージが発信された。



その後「2023 年 10 月 26 日、当時の菊地恵一議長と李素禎科長による初会談を契機に交流が再始動したこと。台北市の教育関係者による松島訪問や 3.11 生命教育の旅など宮城県へ訪問について。それらの中で、いちご狩り、白石城、温泉、蔵王の樹氷などを体験し、参加者から高い満足の声が寄せられたこと。台北市立南港高級工業職業学校の教職員 23 名が宮城県工業高校を訪問し有意義な交流が得られ、その成果として姉妹校の締結が決定し、本年 5 月に正式締結予定であること。台北市政府教育局職員および市内教職員が宮城県の招聘事業により複数回訪問し、トヨタ自動車の工場見学、宮城オルレ、学校訪問、震災伝承館見学、ホームステイや民宿体験など多岐にわたる交流が展開されたこと」など、近年の台北市と宮城県の交流の歩みについて振り返りの意見交換を行った。

台北市政府教育局の鄧進權副局長から「来訪に心より感謝している。特に教育分野で交流を深めていただいていることに感謝している。また、今回の訪問団の団長である菊地恵一議員らは昨年が続いての来訪であり、重ねて感謝している。両地域の交流が活発に行われるようになってきた。宮城県の招待を受け教育局や市内の教職員がたくさん宮城県へ視察に行かせていただいたが、残念ながらここにいる中でおそらく唯一、自分では行けていないので、是非行ってみたい。宮城県は東北の中心に位置し、台北との直行便もあり、とても行きやすい。教育局としても、各学校に多くの情報を発信してきたこともあり、この一年間様々な分野で交流が出来た。宮城県とこれからも緊密な連携を重ねていきたい。その為にも友情を大事にしながら交流進め、お互いに成長できる環境を構築したい。また、ニーズに沿った多岐にわたるプログラムを準備しているので、宮城県の学校からも台北の学校へ来ていただきたい。」との話をいただいた。

宮城県議団の菊地恵一団長から「コロナ禍で途絶えていた教育旅行の交流が 2023 年 10 月の会談を契機に再始動できたこと、またどんどん活発になっていることをうれしく思うし、教育局のみなさまのご尽力に大変感謝している。また、「教育旅行促進に向けた覚書」を締結したのが、今年の今日であり、

ちょうど1年後に皆様とお会いできて感激している。この1年間で3回に渡って宮城県への招聘事業などを通じ数多くの交流が出来たことは、お互いの協力や深い信頼関係あってのものだ。宮城県議会としても、執行部と連携を密にしながら、教育旅行による相互交流を積極的に進めてきた。さらに友好関係を深めたく、今回訪問させていただいたが、次は宮城県でみなさまとお会いできることを期待している。教育旅行を通じ、両地域の高 校生や子どもたちに素晴らしい経験をしてもらいたいので、これからもお互いに努力していきましょう。」との話をした。

(6) 宮城県キャリアサポートセンター

- ・日時：令和7年4月23日（水）15時～16時
- ・場所：台北市宮城県キャリアサポートセンター
- ・応対者：佐々木教 主任
- ・調査内容：宮城県への留学就職支援について

今回、ご対応いただいた佐々木主任は、東洋ワーク株式会社に在籍しており、令和6年5月より台北に出向され、以降、台湾から宮城県への留学・就職を希望する若者への支援に尽力されている。

令和7年4月に開校した「おおさき日本語学校」では、台湾から16名が入学。今も多数の入学希望者から問い合わせが寄せられており、既に来年度（令和8年4月）入学希望者が20名を超えている

状況とのことである。佐々木主任は、入学希望者への面談サポート、大学・高校等への訪問活動、留学フェアへの出展（本年は2回を予定）を通じ、情報発信とリクルート活動を精力的に行っている。

なお、台湾の留学希望者の多くはすでに日本語を学習済みであり、語学学校での学習を長期に渡って行うことには消極的な傾向が見受けられる。基本的には半年間の短期コースを希望する傾向が強く、おおさき日本語学校についても「半年コースの有無」への関心が高い。実際に今年度の入学生16名のうち12名が1年コースを選択している。おおさき日本語学校は、公立校としての信頼性と学費補助制度の存在が、台湾の学生からの大きな評価要素となっている。

宮城県内企業への就職支援も、台湾現地での重要な活動の一環である。令和6年11月には、県の主催事業として、台湾人学生を対象とした3泊4日の就職ツアーが実施され、参加者20名中11名が県内企業とのマッチングに成功した。参加者の多くが親日的であり、一定水準以上の日本語能力と礼儀正しさを備えていたことから、企業からも高い評価が得られた。本年度も同様のツアー開催が予定されている。

一方、マッチングにあたっては、学生側と企業側との間にニーズの乖離が見られる。日本企業、とりわけホテル・旅館等の宿泊業においては人材ニーズが高いが、台湾人学生にはあまり人気がない。背景として、インターンシップ経験者の多くが、厨房や下膳などあまり接客を伴わない業務に従事し、「働



く現場」への好印象を持てなかったことが挙げられる。そのため、宿泊業は「キャリア」としてではなく「短期インターン先」として受け止められている傾向がある。

また、翻訳・通訳といった職種への希望は多いものの、宮城県内の企業の多くは、その役割に特化した人材の専任配置が難しい事業規模である。そのため、企業ニーズに即した業務に従事しながら翻訳・通訳等を兼務するような柔軟なマッチングの仕組みが望まれる。

今後、県としては、企業側の受入意向を踏まえつつ、台湾人材側の志向とも合致するような就職支援モデルの構築が求められる。翻訳・通訳業務と他業務の兼務を前提とした求人設計、受入企業に対する現場改善の助言、日本語教育と職業教育の一体的な支援などを通じて、両者の適切なマッチングを促進すべきである。また、半年コースの設置検討など、語学教育においても柔軟な対応が求められる。

台湾からの留学・就職希望者に対し、宮城県が引き続き魅力ある選択肢として認識されるよう、受入れ環境の整備と支援体制の強化が急務である。今回の視察で台湾における宮城県への留学および就職支援活動の現状と課題を把握できた。現地の声を真摯に受け止め、台湾人材のニーズと受入れ側である県内機関・企業の実情との相互理解を深めるとともに、今後の支援体制の方向性について検討していきたい。

(7) 台北市立大安高級工業職業学校

- ・日時：令和7年4月23日（水）16時30分～17時30分
- ・会場：大安高級工業職業学校
- ・応対者：楊益強 校長、国立政治大学教育学部 陳栄政 副学部長 他5名
- ・調査内容：教育旅行について

台湾の教育部が2023年に設置した「高級中等以下学校国際教育交流連盟」の台北市エリアの処長である台北市立大安高級工業職業学校の楊益強校長を訪問した。大安高級工業職業学校は生1940年に創立され、現在、電子工学科、機械科、建築科、自動車科などに約3,500名が在籍。台湾の工業技術教育をリードする学校の一つとして知られている。教員数は235名でその8割以上が修士号を持っているとのこと。また、学校がある大安区は台北市でも有数の繁華街であるとともに、日本統治時代の台北帝国大学を起源とする国立台湾大学など多くの教育機関が立地する文教都市となっている。



台北市は2018年に「台北修学旅行プロジェクト」を立ち上げ、国際教育交流の推進を図っている。これは台北市の各学校の国際交流（学校や旅行代理店、在外公館など海外からの受け入れ）を一元化し、政府教育局や各学校と連携を取りながら、目的等に合わせてマッチングを行っている。その窓口である「修学旅行プロジェクトセンター」が大安高級工業職業学校に設置されている。さらに大安高校は既に

教育旅行で多くの生徒が宮城県を訪問した実績があり、特に古川高等学校とは教育旅行などを通じて学校間の相互交流が図られている。楊校長先生や同席した国立政治大学教育学部の陳栄正副学部長らと教育分野において日台の相互交流の意義や受け入れ態勢の現状と課題、今後の交流促進について意見交換を行った。

楊校長先生から「昨年、宮城県を訪れた際のおもてなしに感謝する。7 月には宮城県工業高等学校を訪問し交流するなど、たくさんの素晴らしい体験をした。今後、これまで以上に生徒たちを宮城県に送り出し、異文化を肌で感じてもらいたい。宮城県側からももっと台北に来てもらえるとうれしい。」との話をいただいた。

国立政治大学の陳栄政先生から「東北大学のシンポジウムに参加したことがあり、宮城県に対して個人的に思い入れがある。日本に行った際に震災遺構である中浜小学校を訪れ、震災時の校長で語り部である井上先生の話に感銘を受けた。現在、いかにトップの判断の重要性や子どもたちを守るかという教員の使命感が大事であることを台湾の先生方に伝えている。台北の生徒たちが、宮城県を訪問した際は、是非とも震災遺構を見学して防災に対する意識を高めて欲しい」との話をいただいた。

また、本年 4 月、大崎市に開校した「おおさき日本語学校」について、台湾からの入学者が多かったことから、宮城県や大崎市の PR を兼ねながら、学校について説明をした。楊校長から「非常に興味深い教育機関である。生徒たちに進路先として紹介するためにも、まず、台湾の先生方が夏休みなどを利用して短期留学するための 1 週間～1 か月ぐらいの短期プログラムがあればよい」との意見をいただいた。

教育旅行を通じて交流し、互いにそれぞれの文化や習慣、自校の取組等を紹介することは、お互いの生徒にとって、自国の文化に対する理解を深め、誇りを持つことができる。異なる文化を持つ人々に自らの文化等を伝える経験は、国際的なコミュニケーション能力の向上やグローバルな視点の獲得に繋がる。その教育的効果は大きく、さらに宮城県と台北市との教育旅行の促進を図っていきたい。

(7) 台北市政府教育局主催夕食意見交換会

- ・日時：令和 7 年 4 月 23 日（水）18 時～20 時
- ・場所：悦華軒
- ・相手方：台北市政府教育局陳素慧 副局長、李且琪惠 職業教育課係長
楊校長、陳副学部長、他台北市内各学校長等 15 名
- ・調査内容：教育旅行について

台北市教育局職員や大安高校の楊校長先生をはじめとする台北市内各学校の校長先生や事務職員との夕食会に出席し、忌憚のない意見交換を行った。今後の連携強化のための課題や、教育旅行を通じた交流促進に向けて情報交換を行いながら親睦を深めることができた。今回の出席者は、令和 6 年度に宮城県が実施した教育旅行拡大に向けた教育旅行関係者の招聘事業で宮城県を訪問した方も多く、その際の体験が非常に素晴らしかったとの話を伺った。特に宮城オルレコースを歩いた際の自然や蔵王での雪景

色に感動したので、是非、生徒にも見せてあげたいとのことである。日本人にとって当たり前の「日常の風景」が台湾の方々には「非日常の風景」となって感動を呼ぶもので、まさにこういった些細な事が異文化交流や相互理解のきっかけに繋がるものであると感じた。

教育旅行の促進のため、宮城県が来県する団体へのバス料金助成や宮城県内の学校が台湾を訪問した際の助成金や交流受け入れのためのセミナーを実施



していることについて説明を行った。バス助成に関して、ほとんどの校長先生が「とてもありがたい制度だ」と関心を示していただいた。高級中等以下学校国際教育交流連盟の宜蘭エリアの処長である国立宜蘭高級商業職業学校の洪重賢校長先生から「7 月下中から 8 月上旬にかけて、保護者有志が教育旅行の事前調査で宮城県を訪問する。そこで保護者が気に入れば、教育旅行の行先として選ばれるだろう」との話を伺った。正式な訪問日程がわかれば、宮城県側から何らかの対応が必要であろう。その他、教育旅行を通じて生徒同士だけではなく、教員同士が交流することで、それぞれの教育手法やカリキュラム等の良い点を取り入れ、教育の質の向上に繋げていきたいとのことである。また、台北市はバイリンガル教育に力を入れているそうで、その為に各学校でも特に生徒たちの英語学習への興味を高めるべく取り組んでおり、その学習効果を発揮する機会をつくるために提携校との連携など国際交流を通じた実践的な学びの場を増やしていきたいとも伺った。さらに、例えば、芸術、スポーツ、科学など共通の興味を持つ生徒同士が専門分野で交流できるようなプログラムを設ければ、より専門的で意義のある交流が期待できるとの意見交換を行った。

この夕食会でも「おおさき日本語学校」について意見交換ができた。海外志向の生徒も多く、留学先として日本を希望している生徒もいるということで、例えば教育旅行のプログラムにおおさき日本語学校への訪問を取り入れることで、将来の進路先のひとつとして興味を持ってもらえるのではないかと。授業料や寮費が格安であることや地元住民との交流プログラムなども非常に魅力的であるとのことである。

話を伺うと、楊校長先生はじめ、宮城を訪れた方々には好印象を持っていただいたようである。台湾の教育旅行に関する決定権は各学校の先生方、特に校長先生が有していることから、昨年度、宮城県が台湾の教育関係者の招聘事業について、規模や回数については見直す面も必要だが、継続して実施すべきだと考える。

・2 日目所感

宮城県と台湾の交流深化における大きな可能性を実感した。中華民国総統府と圓山大飯店の視察では、歴史と文化を観光・教育コンテンツとして最大限に活用する台湾の手法が提示された。宮城県も、震災遺構や豊かな自然、歴史、文化を、より戦略的に発信し、体験型の学びと感動を提供する観光資源として磨き上げるべきである。

台北市議会では、教育旅行覚書への高い評価と議員間交流への期待が示されたが、これまでの交流が強固な関係構築の土台を築いたことが証明されたのではないだろうか。大安高級工業職業学校では、宮

城県への訪問意欲が強い上、防災教育の提供が台湾の生徒にとって極めて価値ある学びとなことを確認した。また、「おおさき日本語学校」への強い関心は顕著であり、半年程度の短期プログラム設置が留学促進の鍵となる。公立校の信頼性と手頃な学費は、台湾学生にとって大きな魅力である。

宮城県キャリアサポートセンターへの訪問では、台湾からの留学・就職希望者が増加する一方で、県内企業とのミスマッチ解消が課題であると判明した。企業と学生双方のニーズに合わせたきめ細やかな支援体制構築は急務であろう。台北市政府教育局主催の夕食会では、宮城県の教育旅行助成制度が好評を博し、宮城県の日常風景が台湾の人々に特別な感動を与えているものの、仙台空港の直行便利用者の大半が台湾からの訪問者である現状は、宮城県からの台湾へのアウトバウンドが不足していることを示す。今後は、単なるインバウンド誘致に留まらず、宮城県から台湾への積極的な双方向交流を強化し、連携を深める必要がある。

◎視察 3 日目

(8) 国立台南家齋高級中等学校

- ・日時：令和 7 年 4 月 24 日（木）11 時 30 分～12 時 30 分
- ・場所：国立台南家齋高級中等学校
- ・対応者：陳韻如 校長、朱景文 秘書、他 2 名
- ・調査内容：教育旅行について

家齋高級中等学校は 1924 年創立で、昨年創立 100 周年の節目を迎えた歴史ある学校である。創立以来女子校だったが 2016 年から男女共学となり、現校名となった。現在、普通科並びにファッションデザイン科やレストラン経営科などの職業学科を擁し、51 クラス約 1700 名が在籍する学校である。4 月 21 日～24 日の日程で、日本におけるインターハイに該当する台湾の高校のスポーツの全国大会が台南市で開催されていたため、訪問日は休校日となっており、生徒の姿は見られなかった。

高級中等以下学校国際教育交流連盟の代表理事は、台湾教育部の教育部長（日本における文部科学大臣に相当）であるが、副代表理事が家齋高級中等学校の陳校長先生であるため、連盟のオフィスは家齋高級中等学校内に設けられている。連盟は台湾全土に 11 のエリアがあり、国際教育交流の総合窓口となり、交流の計画立案や調整等を実施している機関である。そこで、陳校長先生らと台湾全体の教育分野における日台の相互交流の意義や受け入れ態勢の現状と課題、今後の交流促進について意見交換を行った。特に、宮城県や台南市が持つ歴史的・文化的魅力と、防災・復興の経験を交流プログラムに組み込む可能性について率直な意見を交わすことができた。

陳校長先生から「2019 年に約 60 名の生徒が松島を訪問し、良い印象を持った。個人としても本年 2



月に宮城県の招聘事業に参加し宮城県を訪れたが、その際のおもてなしに深く感謝するとともに宮城県がとても良い場所だと実感した。先月、宮城県による訪日教育旅行の説明会があり、約50名の教員や保護者が参加した。自身もさらに興味を深め、関心を持った保護者も多い。相互交流の推進のため、宮城県や宮城県議会のサポートに感謝する。現在、広島県や兵庫県の高校と姉妹校の締結をしており交流をしている。仙台東高校とはWEBでの交流を行っているので、出来れば姉妹校の締結を進めたい」との話を伺った。また、台湾の生徒が宮城県を訪問した際は、地元の高校生と実際の授業やホームステイ等の交流、防災教育として震災遺構の見学を実施したいとのことである。特に震災遺構は、津波や地震の被害の大きさを視覚的に伝える重要な教材であり、将来の災害に備えた防災意識の向上や、減災対策の重要性を広く伝えることができる。東日本大震災を経験した宮城県だからこそ、遺構の保存や伝承活動を通じて、教育できることがあり、台湾の生徒の防災教育に大いに役立てていただきたい。

一方で、教育旅行などが形骸化し、表面的な交流や見学に留まってしまうと、期待される効果が得られない可能性もある。そのためにも、参加者の興味や関心に合わせた質の高い交流プログラムを企画・実施することが重要であると考え。宮城県で防災について学びを深めることは非常に意義深いものである上、訪問先に選定していただく際の高いアピールポイントになるであろう。

「おおさき日本語学校」について説明を行ったが、学費の安さや学生寮が完備されていることなどに陳校長先生も非常に関心を示した上で、大安高校の楊校長先生と同様に「2週間ぐらいの短期プログラムがあれば良い」と仰っており、その需要はあるものと強く感じた。

(9) 台南市台日文化友好交流基金会

- ・日時：令和7年4月24日（木）14時30分～15時
- ・場所：台南市台日文化友好交流基金会事務所
- ・応対者：李退之 理事長、郭貞榮 名誉理事長、蔡佳容 企画主任
- ・調査内容：教育旅行や国際交流推進について



台南市台日文化友好交流基金会は2009年5月に台南県台日友好交流協会として設立し、台南市の行政機関や民間団体と日本との交流促進を支援している団体である。台南市主催の日本文化を発信する「和風文化祭」の開催に深く携わっており、毎年約2万人が来訪するまでになった同イベントをこれまで12回重ねてきた。ほかにも数多くの日台交流事業や日本文化紹介事業を主催してきた。また、日本、台南市双方の行政関係者、議員、民間団体等の往来に係るコーディネート業務等にも取り組み、日本と台南市の関係強化や相互理解に多大な貢献をしている団体である。

李理事長から「台南市は台湾で最も古い都市であり、「台湾公会堂」「旧知事官邸」などの日本統治時

代に建てられた建造物やオランダ統治時代に建てられた台湾で最古の堡壘である「安平古堡」などの歴史的建造物が数多くある。国定古跡は台湾全土で最多となる 22 カ所ある。約 185 万人の人口を有する近代的な都市でありながらレトロな街並みも楽しむことができ、夜市をはじめミシュランガイドに掲載されている店も多いなど、グルメも堪能できる魅力的な都市である。そういったことから日本から教育旅行をはじめとするアウトバウンドを大いに期待する。多くの日本人に訪れてもらい、実体験を通じて、台南市の歴史や文化、食の魅力を堪能してもらいたい。さらに現地の人々と交流することで、更に相互理解が深まる。ますます日本が好きになり、日本を訪問する人も増える。交流を通じ新たな日台両地域の企業間の連携や事業展開など経済面でもその効果が期待できる。お互いに WIN-WIN の関係を築いていきたい。私たちは日台の懸け橋となることが一番の仕事である」との話を伺った。また、実際に宮城県・台南市を行き来して対面での交流が理想ではあるが、それでは少しハードルが高いということであれば、まずは門戸を開くこと、きっかけを作ることが大事であることから、オンラインでの交流から始めるのもひとつの方法であるとのこと。いずれにせよ、教育旅行に参加する学生にとって、異文化体験は国際的な視野を広げ、多様な価値観を尊重する心を育む上で貴重な経験となり得るし、民間の草の根レベルでの交流が活発になることは、両地域間の長期的な友好関係の構築に繋がることを再認識した。

台南市台日文化友好交流基金会は、台南を訪れる日本人と、日本を訪れる台南市民にとって最良の連携プラットフォームとなり、国際社会の架け橋となることを目指している団体である。また、李理事長は個人的にも宮城県に何度か訪れており、その度に変化する沿岸部の様子を見て、復興の力強さを感じているとのこと。台湾の中でも特に台南市は親日であると感じたことから、今後さらなる連携強化を図り日本、宮城県、台湾、台南市との絆を深めていきたい。そのためにも従前から言われてきていることであるとともに、今回の視察先でも皆さんが口を揃えるように仰っていたが、宮城県はまだまだアウトバウンドが弱い。特に仙台空港は台湾との直行便があるが、乗客のほとんどが台湾の方々である。円安等の社会経済情勢も影響しているとは言え、インバウンドだけではなく日本、宮城県から台湾へのアウトバウンド強化の取組を進めていかなければならない。

意見交換の全体を通じ、宮城県との交流に対し非常に前向きであり、特に歴史文化やIT産業、マンゴー栽培などの南国ならではの農業といった台南市の特色を活かした交流プログラムへの強い関心が示された。

(10) 台南市議会表敬訪問

- ・日時：令和 7 年 4 月 24 日（木）16 時～17 時
- ・場所：台南市議会
- ・応対者：顔昇祺 秘書長、黄俊傑 総務グループ主任、他 10 名
- ・調査内容：国際交流や地域間連携について

台南市議会を表敬訪問し邱莉利議長らと会談する予定であったが、邱議長が急遽欠席となり、顔昇祺秘書長らにご対応いただいた。台南市は 2024 年、建城 400 年の節目を迎えた。これは、1624 年にオラ

ンダ人が台南の安平地区に上陸し、熱蘭遮城（現在の安平古堡）を築いたことに由来し、台南市政府は昨年「台南 400」というテーマのもと各種イベント等を行った。それらを通じて台南の歴史的価値を再評価したことで、次の 400 年に向けた都市の発展を考える契機となったとのことである。

これまでも宮城県議会と台南市議会は、相互訪問や災害時には相互支援など交流が図られてきたところである。特に、台南市で昨年開催された第 10 回日台交流サミット、仙台市で一昨年開催された第 9 回日台交流サミットを契機に宮城県議会・仙台市議会・台南市議会の関係がより一層深まっている。特に今回の訪問団の高橋伸二議員と菊地恵一議員は、それぞれ議長として、高級中等以下学校国際教育交流連盟との「教育旅行促進に向けた覚書」締結式や日台交流サミットなどに出席しており、そういった交流の機会を重ねたことにより、台南市議会の邱莉莉議長と親しい間柄にある。さらに台南市は仙台市と交流促進協定締結都市となっており約 20 年に渡り、相互交流を重ねた実績がある。

また、台南市は台湾高速鉄道（台湾新幹線）で台湾の空の玄関口である台北市から最短で約 1 時間半、台湾第 3 の都市である高雄市から約 15 分とアクセスが良く、観光地や歴史遺産等見るべき場所も多いことから、台湾の中でも、教育旅行の受け入れに力を入れている都市のひとつである。

顔秘書長から「この訪問を邱議長も楽しみにしていたが欠席となり申し訳ない。今回の訪問は単なる表敬ではなく、宮城県との深い絆を感じる。一昨年は仙台市、昨年は台南市で開催された日台交流サミットでは大変お世話になった。これらの事は日本と台湾のこれまで築いてきた信頼関係の賜物であり、今後とも交流を深化させていきたい。特に東日本大震災の経験を持つ宮城県の学校と地震の多い台湾の学校が交流することは、互いの経験や教訓を共有し自然災害に対する意識が高まり、両地域の生徒にとって貴重な学びとなる。そのような観点から青少年の国際交流は議会としても応援していきたいので台南市議会と宮城県議会が一緒に努力していきましょう」との話を伺った。

これまでも宮城県や仙台市に関心を持つ方々は多かったが、昨年 4 月の宮城県と高級中等以下学校国際教育交流連盟との「教育旅行促進に向けた覚書」締結以降、教育旅行に限らず、台南市から宮城県を旅行先として考える人が増えているとのことである。現在、宮城県から台湾への教育旅行先は直行便のある台北市が多い。しかしながら、台南市は現時



点で訪問先としての認知度があまり高くないだけで、台北市や高雄市からアクセスが良く、歴史・文化遺産等見るべき場所も多い上、教育旅行の受け入れにも力を入れていることから、訪問先としてもっと検討すべきではないかと考える。そして、アウトバウンドを含めた、台南市と宮城県のさらなる地域間交流を進めていきたい。そのためにも宮城県議会と台南市議会がより連携し関係を深めていくことは非常に重要である。そして、直接お

会いして、面と向かって話をする事で、より信頼関係や相互理解を深められると実感した。

(11) 台南市議会議長主催夕食意見交換会

- ・日時：令和7年4月24日（木）17時30分～19時30分
- ・場所：漢来名人坊
- ・応対者：台南市趙卿惠 副市長、台南市議会鄭佳欣 議員、台南市姜淋煌 民政局長
郭貞栄 名誉理事長、顔 秘書長 他10名
- ・調査内容：教育旅行や地域間連携について

趙副市長、邱莉利議長の代理として出席いただいた鄭議員、台南市議会関係者らと夕食をともにしながら教育旅行をはじめとする国際交流について、意見交換を行った。

趙副市長から「今回の宮城県議会の訪問団を心から歓迎する。これまで台南市と宮城県や仙台市と交流を図ってきたが、今回の訪問を契機に両都市のつながり、絆をより強固なものにしていきたい。日本は安全で近距離であり訪問しやすい。台南は親日家もとても多いので、旅行先として日本は非常に人気があるし、リピーターも多い。教育旅行を中心に文化交流やスポーツ交流などを通じてさらに国際理解を深めていきたい。今後、仙台空港と台南空港の直行便が就航されれば、相互交流がさらに深まるでしょう。そのためにも宮城県からもっと台南に来てください」との話を伺った。

鄭議員から「台湾は日本と同様に地震が多い地域である。例えば、1999年9月の台湾大地震では死者2000名以上の大きな被害があった。2016年には台湾南部地震、昨年4月は台湾東部の花蓮県で大きな被害があった。本年1月にも台湾南部を震源とする大きな地震があり、台南市でも震度5弱を観測し学校が休校となった。日台の青少年が防災教育を通じて交流を深められれば、両国にとって防災力の強化に繋がる。」との話を伺った。台湾大地震や東日本第震災を経験していない若い世代に震災の記憶を繋いでいくことは、将来の災害に備えた防災意識の醸成や、減災対策の重要性を理解する上で、非常に重要である。宮城県へ訪問する教育旅行を通じて、日台両国において相互に防災教育の充実が図られることを望むものである。また、余談ではあるが、鄭議員から台湾の選挙制度やご自身の政治活動について話を伺ったが、日本と比較して屋外看板や物品の提供など規制が随分と異なるものとなっていることは興味深かった。

農業や漁業、伝統工芸、近年ではテクノロジー産業にも力を入れており「沙崙スマートグリーンサイエンスシティ」を設けグリーンエネルギーやスマートシティの研究開発が進んでいるなど、台南の産業構造や経済活動について教えていただき様々なテーマで意見を交わすことができた。特に、台湾は世界有数の蘭の輸出国であり、中でも台南は蘭の生産が盛んな地域であるとのこと。そして台南には「台湾



蘭テクノロジーパーク」があり、研究開発から生産まで世界をリードしていると伺った。そう言った機関との相互交流を図れば、宮城県の園芸、特に花卉栽培の振興にも期待できるのではないか。互いの国や地域について、理解し友好を深められたほか、これからの交流の在り方等について、様々な気づきを得ることができ、とても有意義な夕食会となった。

今回、訪問先では必ず熱心な「お出迎え」があった。「お見送り」は日本と大きな違いはないが、「お出迎え」に関しては日本のそれとは異なり、横断幕や小旗等を用意して大人数で出迎えるものである。出席者にその旨をお伝えしたが、台湾の方にとって礼儀としておもてなしの心を形で示すのはとても大事であるとのことである。今後、台湾から教育旅行をはじめ訪問団を迎えるときは、台湾式の盛大な「お出迎え」も必要であろう。

・3日目所感

台南市における教育、文化、議会間の多岐にわたる交流の可能性を実感する一日となった。家斉高級中等学校では、陳校長先生から宮城県への高い関心が示され、姉妹校提携や防災教育を組み込んだ交流プログラムへの意欲が強く伝わってきた。特に、東日本大震災の経験を持つ宮城県の防災に関する知見は、地震多発国である台湾の生徒たちにとって、かけがえのない学びとなり、単なる観光に留まらないより深く実践的な教育旅行の需要を強く感じた。

台南市台日文化友好交流基金会では、李理事長から台南の豊かな歴史や文化、食の魅力が紹介され、直接的な交流を通じた相互理解の重要性が強調された。台南市議会では、顔秘書長から宮城県議会とのこれまでの強固な関係が語られ、青少年交流を通じた防災力強化への期待が示された。台湾側、特に台南市が宮城県との交流に対し非常に前向きであることを強く認識した。歴史的・文化的魅力に加え、IT産業や農業といった台南市独自の特色を活かした交流プログラムへの関心も高く、今後の連携の可能性の広がりが期待できる。

一方で、宮城県からの台湾へのアウトバウンドがまだ弱いという課題も浮き彫りになった。円安の影響があるとは言え、直行便があるにも関わらず、台湾への渡航が少ない現状は改善が必要だろう。今回の視察で得た多くの示唆を活かし、宮城県から台湾への積極的なアウトバウンド推進が、相互理解と経済効果を高める上で、不可欠であると強く感じる。

◎視察4日目

(12) 高雄市立高雄女子高等学校

- ・日時：令和7年4月25日(金) 9時30分～10時30分
- ・場所：高雄市立高雄女子高等学校
- ・応対者：鄭文儀校長、迎賓チーム（生徒5名）
- ・調査内容：教育旅行による宮城県との相互交流促進について

宮城県教育委員会は、「第2期宮城県教育振興基本計画（改訂版）」において、「国際理解を育む教育の

推進」を掲げ、グローバルな視野と国際社会に貢献する志を育むため、他国との学校間交流を進めるとともに、オンラインを活用した交流活動や海外留学などの体験活動等の充実を図っている。この計画を踏まえ、令和6年3月29日に台北市政府教育局と教育交流における連携と協力関係の強化に関する覚書を締結し、令和6年4月16日には、台湾高級中等以下学校国際教育交流連盟と教育分野の交流・連携に関する覚書を締結した。

この締結を受け、現在、台湾から30校700名、日本から20校500名が教育旅行による相互交流が図られてきた。

一方、台北以外の学校からの来県はなく、小中学校を含めた高雄市との教育の交流・連携を図るべく、高雄市立高雄女子高等学校を訪れ、推進に向けた意見交換を行った。

高雄市立高雄女子高等学校は、台湾・高雄市前金区に位置する市立の女子高等学校で、台湾南部を代表する名門校の一つである。1924年日本統治時代に「高雄州立高雄高等女学校」として設立され、現在、約2,300人（全校女子）在籍。2024年には創立100周年を迎え、生徒や教職員ら約2,000人が校庭で「KGHS100」の人文字を作り、記念行事を行った。

高雄女中は、普通科高等学校として、学生の学力水準が高く、大学進学実績も優れている。全校で63クラス、各学年21クラスが設置され、約2,250人の生徒が在籍している。生徒の入学時の素質が高く、大学入試においても優れた成績を収めており、専門的な教員陣、充実した教育資源、最新の教育設備を備え、歴代の校長の指導のもと、学校は一流のエリート高校として成長してきた。視察時に、迎賓チームとして5名の生徒による学校のプレゼンが行われ、全て英語による発表であった。小学校からのカリキュラムの他、塾等に通いながらスキルアップを目指すとともに、コミュニケーション力の向上も図られてきたことを実感した。



また、国際交流活動にも積極的で、日本の高校との交流も行われている。例えば、2023年には大阪府の常翔学園中学校・高等学校とのオンライン交流を実施し、同年12月に生徒32名と教員4名が常翔学園を訪問し、吹奏楽部の演奏、校長挨拶、プレゼント交換、生徒による学校紹介、ダンス披露などが行われ、交流を深めた。また、2017年には生徒98名が千葉女子高校を訪問。書道、音楽、家庭科、体育などの授業を共に体験し、マーチングバンドの演奏や歓迎会を通じて交流を深めた。これらの交流活動を通じて、高雄女中の生徒たちは日本の高校生と文化や学問の面での理解を深め、国際的な視野を広げている。



鄭文儀校長からは、現時点において高雄から宮城県に訪れる学校はないが、震災からの復興を間近で見た経験から防災教育の重要性を鑑み、近い将来、高雄市立高雄女子高等学校として訪れたいとお話を受けた。

また、迎賓チームの5名の生徒から、人気アニメ「ハイキュー!!」の舞台である宮城県への親近感

があり、バレーボールなどクラブ活動による交流や宮城の高校生の普段の生活を体験したいとの強い希望があった。

多様な国際理解の教育推進とグローバルな人材育成を目指す取り組みとして、地域性の違いがある台湾南部との交流を図るべきと考える。また、タイガーエア台湾が仙台空港と高雄空港を結ぶ初の路線を開設すると発表し、7月から週3往復を予定することからも、高雄市との交流もしやすくなる環境ができ、高雄市側からの要望（防災教育の推進）も鑑みると、宮城県と台湾南部を含めた更なる相互交流を図るべきと考える。

（13）縦横遊有限公司（パッケージツアー社）

- ・日時：令和7年4月25日(金) 17時～18時
- ・応対者：袁振寧氏(常務取締役)、劉洋斌氏（日本部・営業課）
- ・調査内容：仙台空港との間に多くの路線を有する香港へのアウトバウンド促進について

縦横遊有限公司（WWPKG Holdings Company Limited）は、1979年に香港で設立された大手旅行会社で、主に日本をはじめとするアジア、ヨーロッパ、オセアニア、南極などへの旅行商品を提供しており、2017年には香港証券取引所のGEM市場に上場し、国際的な旅行サービスプロバイダーとしての地位を確立している。

縦横遊有限公司は旅行目的地及び日程、宿泊、交通、観光などのサービス内容並びに料金を設定し参加者を募る募集型企画旅行パッケージツアーとして、日本、台湾、韓国、東南アジア、欧州などへの団体旅行などを企画・運営しており、その中でも特に日本旅行に強みを持ち、ダイヤモンド・プリンセス号などの豪華客船を利用したクルーズツアーや「瑞風号」「四季島」などの高級列車を利用した特別な鉄道旅行、FIT（個人自由旅行）向けの商品など様々な旅行商品・サービスを提供している。

現在、仙台空港と週11便の路線を有する香港が日本からの観光地としての実績があり、縦横遊有限公司においても、主にグループ観光ツアー商品を販売し、多くの送客実績があるため、今後の路線維持・拡大のために宮城県には何が必要かなど意見交換を行った。

訪日香港人観光客数はコロナの影響で一時減少したものの、2024年は2019年の117%を達成し過去最高の数値を更新しており、宮城県における宿泊者数も2024年は過去最高となっている。しかもリピーター率は90%と非常に高く、都市部（東京・大阪）を既に訪れているため、地方への関心が高まっている。

東北地方においても、その傾向が顕著である。旅行日数は3～5日程度が中心という事もあり、東北各県を回りたい方が多いが、空港から先の観光地・宿泊地への接続が不便であるとの事で、2次交通の課題がネックとなっている。特に地方部では路線バスやローカル線の本数が少なく、接続も悪い上に、IC



カードが使えない地域交通機関があるなど利便性に欠けている。アクセス情報のわかりにくさ、交通手段の不安、言語対応不足など2次交通の課題解決は必須である。

また、東北観光推進機構によるインフルエンサー招請事業は、日本の旅行情報を発信することで多くの支持を集めており、この事業を通し、東北各県と連携した周遊観光を更に目指すべきである。

一方、香港便の就航初日の香港発仙台行きの便は満席となった一方、仙台発香港行きの便の搭乗率は約55%にとどまるなどアウトバウンドが課題であり、直行便を維持するためにも、地域全体でのアウトバウンド需要の喚起が求められている。

宮城県においては航空券取得費用やパスポート取得費用の一部助成を行っているが、更なる海外旅行意欲の喚起を図るためにも、香港の魅力を伝える情報発信の強化やビジネス交流の促進など幅広く取り組む必要性が考える。

旅行商品の造成はもちろんだが、こういった取り組みを通して、インバウンド誘致だけではなく、双方向交流の拡大による搭乗率向上が、航空ネットワークの維持・拡大に繋がる事と思う。また、国際交流の観点から、パスポート所持率が低い若年層による教育・文化交流の推進を図ることが今後重要だと認識した。

◆海外プロモーション

・4/8～12 香港インフルエンサー招請

香港現地からインフルエンサー2名を招請し、「東北の桜と食、温泉旅館」を主なテーマに宮城県・岩手県・秋田県・山形県を視察しました。宮城県及び山形県では満開の桜やまつりを楽しむ東北の人々を視察することができました。「東北は他の地域に比べて観光客が少なく、それがゆっくり桜を觀賞できる点でとても魅力的」、「人の目線に桜があるため近くで楽しむことができる点も良い」とのコメントをいただきました。

また、桜が開花していなかった地域においても、東北らしい景観を視察することができました。香港では景観と食を旅行目的とする方が多く、風光明媚な東北の景色や各地の特色豊かな食事は好評で、招請中もリアルタイムでSNSにたくさん投稿していただきました。



(14) 縦横游有限公司（パッケージツアー社）と意見交換会

- ・日時：令和7年4月25日(金) 18時30分～20時30分
- ・場所：海天薈
- ・応対者：袁振寧氏(常務取締役)
- ・調査内容：香港からのインバウンド誘致対策等について

縦横游有限公司（パッケージツアー社）の袁振寧常務取締役と、引き続き、意見交換を行った。

香港人の訪日者数は2019年のピーク時には229万人に達したが、コロナ禍の影響で一時的に減少した。しかし2023年には2019年の92%まで回復し、円安効果も相まって、更に増加傾向にある。観光庁のデータによると、訪日香港人のリピーター率は非常に高く、2019年には87.7%が2回目以降の訪日であり、そのうち29.7%は10回以上訪れている。三大都市圏以外の地方への訪問割合が高い傾向があり、



今後ますます東北地方への誘客の増加が見込まれる。

現在、仙台空港と香港空港を結ぶ定期便は、2024年12月にグレーターベイ航空が就航して以降、香港航空と香港エクスプレスも相次いで就航し、3社合わせて週11往復が運航していたが、平成8年に出版された漫画で、2011年の東日本大震災を「予言」したとして一部で注目された日本の漫画家たつき諒氏の作品「私が見た未来」にて、「本当の大災難は2025年7月にやってくる」と書かれ、また香港の有名な風水師の「今年の夏に日本で大地震、大津波が起こる」という予言がSNSにて拡散し、日本への旅行を控える動きが広がった影響で、パッケージツアーが50%落ち込んでいるとの話であった。またこの事態は航空会社にも影響を起こしており、仙台香港直行便に関し、香港航空が2025年6～10月まで全て運休する事とし、グレーターベイ航空も現在、週4往復運航している便を5～10月まで週3往復に減便する方針で、現在の週11往復から週7往復で運航される見込みとなり、今後の仙台香港直行便の路線維持への影響が危惧される。

国においては南海トラフ地震が発生した際の被害想定を公表しているが、あくまで千年に一度あるいはそれよりも発生頻度が低く、次に発生する南海トラフ地震を予測したものではないことを強調しつつ、災害時における情報伝達手段を含めた外国人観光客への対応体制の整備をし、安心宣言を発出してもらいたい。

また、予言の時期が過ぎる秋以降に反転する可能性があるもので、香港人の旅行志向を熟知したランドオペレーターと連携しながら、パッケージツアーを販売する大手旅行会社による旅行商品の造成の働きかけを積極的に行い、秋以降の集客を見据えたプロモーションが効果的になると考える。そして、季節・月ごとの最新情報について、SNSを活用した繁体字中国語による情報発信に取り組み、日本の他地域とは異なる魅力を伝えることで訪日旅行意欲を高めることが、リピーターの多い香港観光客に必要不可欠であろう。

・4日目所感

教育・観光・物産の分野における国際的な交流の深化と、地域活性化の新たな可能性に触れる、極めて意義深い一日となった。まず、高雄市立高雄女子高等学校の訪問では、同校が長年にわたり培ってきた教育の伝統と、英語による堂々たるプレゼンテーションに見られた生徒の高い意識に感銘を受けた。教育旅行を契機とした宮城県との交流への強い期待が寄せられたことは、今後の人的・文化的交流の広がりに対する大きな手応えである。加えて、地域に根差した防災教育への関心の高さは、震災の経験を共有することの意義を再認識させるものであった。

また、香港においては、旅行会社や流通業者、メディア関係者との意見交換を通じて、観光・物産の両面における宮城県の魅力発信と市場開拓の可能性を確認した。特に、航空ネットワークの維持・拡大

を図る上では、インバウンド誘致と並行したアウトバウンド促進が重要であり、教育交流や若年層の国際的な体験機会の創出がその鍵となるとの認識を深めた。

4 日目の視察を通じて得られた知見は、単なる個別施策のヒントに留まらず、「地域と世界をつなぐ仕組み」をいかに具体化し、持続可能な形で展開するかという根本的な問いを与えてくれるものであった。ここで得られた示唆を、今後の政策立案に着実に生かしてまいりたい。

◎視察 5 日目

(15) パン・パシフィック・リテール・マネジメント社

- ・日時：令和 7 年 4 月 26 日(土) 10 時～11 時 30 分
- ・場所：DON DON DONKI 尖沙咀店
- ・応対者：玉木康太氏（執行役員）
- ・調査内容：宮城県産品の輸出促進と海外における宮城県の PR プロモーションについて

Pan Pacific Retail Management（パン・パシフィック・リテール・マネジメント）は、日本の大手ディスカウントストア「ドン・キホーテ」などを運営するパン・パシフィック・インターナショナルホールディングス（PPIH）グループの海外事業を担う企業で、アジア地域を中心に複数の法人を展開し、それぞれの地域で「DON DON DONKI（ドンドンドンキ）」ブランドの店舗運営や現地市場への対応を行っている。DON DON DONKI は、日本の商品を中心に取り扱うディスカウントストアを展開し、現地の消費者に日本の魅力を提供している。

香港では 2019 年 7 月に初出店して以来、急速に店舗数を拡大しているが、各店舗は地域の特性や顧客層に合わせた独自の商品ラインナップやサービスの提供を行い、地域密着型の店舗運営を実現している。そこで、香港市場におけるニーズに合った商品構成を踏まえた宮城県産品の輸出促進に向けた意見交換を行った。

宮城県においては、「宮城県農林水産物・食品輸出促進戦略」において、輸出機関品目を策定し、輸出拡大に重点的に取り組んでおり、その中でも品質の良い亘理産いちごが人気で、香港においても売上げが伸びている。品質の良い日本産のいちごは、海外で高い人気と需要があり、県内でいちごの輸出に取り組む生産者は増加しているが、更なる輸出量の拡大を図るためには、海外におけるプロモーションを展開して宮城県産いちごの認知度向上とブランド化に取り組み安定した供給体制の構築が求められる。

令和 7 年 3 月に改訂した戦略では「サツマイモ」も輸出基幹品目に設定しており、香港においては家





庭に蒸し器があり、手軽にサツマイモを食べる環境にある。その中でも、糖度が高い日本産が人気であり、その需要は年々大きくなっている。この需要に対し供給が応えられるよう、さつまいもの生産面積の拡大を図りながら更なる輸出拡大を図るべきと考える。

また、牛肉に関しては、令和7年1月20日から2月20日までの1ヶ月間、1頭買いによる仙台牛フェアが好評であったそうで、他産地との差別化を

踏まえつつ、輸出増に向け、今後も同様のプロモーションが必要であろう。ただし、県内には香港へ輸出できる食肉処理施設がないため、一頭買いを推進していき、仙台牛の効率的な輸出の拡大と仙台牛のブランド力の向上を図っていくべきであろう。

一方、同様に輸出基幹品目である「日本酒」に関しては、コロナをきっかけとする若者の酒離れや健康増進を目指した酒税の増税もあり、売上が芳しくない状況であった。しかし、特に女性には梅酒・チューハイなどの飲みやすいお酒が人気であるため、県産日本酒の認知度向上及び輸出促進に向けては、スパークリング日本酒の販売を行うなど戦略の見直しが必要と考える。

DON DON DONKI 香港においては日本製品・日本文化に対する信頼と人気が顕著であることを実感できたことで、観光と物販の相互補完によるブランディング効果が見られたことから、宮城県のPRプロモーションを行う事で、本県産品の販路開拓・輸出促進にも繋がるであろう。



(16) 香港経済新聞社(コンパスコミュニケーションズインターナショナル)

- ・日時：令和7年4月25日(金) 12時～13時30分
- ・場所：翠亨屯
- ・応対者：木邨千鶴氏
- ・調査内容：香港からのインバウンドプロモーション等について

「Compass Communications International Limited (コンパスコミュニケーションズインターナショナル)」は、香港を拠点に活動し、メディア出稿やデザイン制作など広告代理業務、PR や SNS マネジメントなどのプロモーション業務、マーケティングリサーチやリスク調査などのリサーチ業務、ツアー造成や航空会社アプローチなどのコーディネート業務、そして香港のビジネスやカルチャーに関するニュースを発信するオンラインメディア「香港経済新聞」を運営し、現地の最新情報を日本語で提供を行っている。また、新しい旅行展示会「香港旅遊博覧会（ホリデー&トラベルエキスポ）」の主催企業である展覽集団（エキシビショングループ）とパートナーシップ合意書を締結し、同展示会の日本市場向け総合窓口を担当することになったとのことで、日本と香港をつなぐ重要な広告代理店である。

代表である木邨千鶴氏は、東京都出身で、広告代理店「クオラス」に勤務後、2007 年香港へ移住。現地のフリーマガジン勤務を経て独立し、Compass Communications を設立し、自治体や企業の広報支援、自社メディアの運営など、香港と日本をつなぐ多様なマーケティング活動を展開しており、現地を精通しているからこそその視点による香港からのインバウンドプロモーション等について意見交換を行った。

日本政府観光局(JNTO)が 2024 年の外国人観光客統計を発表し、訪日香港人は前年比 26.9%増の 268 万 3500 人で、過去最高だった 2019 年の 229 万 792 人を大きく上回り、約 687 万人の中華系の 2.5 人に 1 人が訪日したことになった。旅行消費額総額は訪日外国人全体で 8.1%(5 位)であるが、1 人当たりの旅行支出は 24 万 8,011 円(前年比 9.1%増)で、平均 22 万 7,242 円を上回っている。しかも、香港人は 1 年に何度も訪日するため、1 人当たりの訪日における年間支出総額は圧倒的に多く、飲食や商品購入など多くの消費行動を行っている。しかしながら、訪日香港人の多くは東京での購入額が多く、宮城県内においては消費額が少ない現状とのことで、商店街紹介の冊子やクーポンを作製したプロモーションを行うべきとのお話であった。

また、香港で開催される旅行博への出展や、現地でのセミナー開催を通じて、直接的なプロモーション活動を行うことが効果的であるため、香港でのサポートデスクを設置し、効果的、効率的な情報発信を行いながら、現地旅行会社等の招請や現地旅行博・商談会へ積極的に参画するなど香港からの誘客促進を図るべきと考える。

一方、香港などからの旅行者は雪が降る冬季に増えて夏場は減る傾向があり、グリーンシーズンへの誘客が課題である。桜や新緑などの自然や夏祭りなどの伝統文化、トレッキングなどのアウトドアコンテンツなどグリーンシーズンの観光資源や魅力が十分に知られておらず、観光需要の喚起するためのプロモーションに更に力を入れるべきと考える。

(17) 黄大仙廟（こうだいせんし）

- ・日時：令和 7 年 4 月 26 日(土) 13 時 30 分～14 時 45 分
- ・場所：黄大仙廟
- ・応対者：木邨千鶴氏
- ・調査内容：香港へのアウトバウンド政策等について

黄大仙廟は、香港中心部から地下鉄で気軽に行ける比較的近い場所に立地し、九龍黄大仙区にある仏

教・道教・儒教の3つが習合した香港で最も有名なお寺である。また、「龍穴」という大地の気が凝縮している特別な場所であるとの事で、「有求必應（求めれば必ず願いが叶う）」のお寺としても有名であり、風水をはじめ占い事を尊重する香港の国民性も相まって、年間約300万人もの人々が訪れる香港における大定番のパワースポットとなっているとの事であった。

当日も多くの観光客で賑わっており、お参りする際に使用する線香が多く奉納されているとともに、境内では多くの若い人達が小さな棒の入った筒を揺らしながら、手元から零れ落ちた棒をおみくじとして占いをする一連のやりとりも行われていた。祀られている黄大仙は、石を羊に変えてしまったという逸話を持つ晋時代の仙人で癒しの神とされているとの事であり、黄大仙に捧げられたというこの寺院は、明るい朱の柱、青銅の十二支像、繊細な格子と龍の装飾が施された翡翠色の屋根等が施されており、大変綺麗な外観となっていた。また、高低差のある敷地をフルに活用した迷路状に続く通路がいくつも分岐した複雑でとても広い境内構図となっており、何よりも驚いたのは、入場料が無料という日本では考えられない施設となっていた。

ただし、円安の影響等もあり、現地で日本人らしい観光客はほとんど見受けられず、比較的信仰心の高い日本人としての特性を勘案すると、香港へのアウトバウンドとしてのコンテンツとしては十分訴求力のある場所であると感じた。また、本県の塩釜神社や大崎八幡神社等の歴史ある神社仏閣も香港の方々のインバウンド需要開拓のコンテンツとして有効であるようにも感じられたため、今後は、香港・宮城双方の旅行代理店等との連携を更に充実させながら、インフルエンサーの積極的活用も含め、仙台空港へのインバウンド対策とともに、課題となっている積極的なアウトバウンド対策を積極的に講じ、双方向での往来が活発となるよう取組みを強化していく必要性を強く感じた。



（18）香港故宮文化博物館

- ・日時：令和7年4月26日(土) 15時～16時30分
- ・場所：香港故宮文化博物館
- ・応対者：木邨千鶴氏
- ・調査内容：香港へのアウトバウンド政策等について

香港故宮文化博物館は、貴重な宝物を展示する文化施設として、西九龍文化地区に2022年7月にオープンし、オープン後の9ヶ月間で100万人の来場者を記録し、直近の2024年も100万人の来場があったとの事であり、まさに香港における文化的ランドマークとなっている。



来場者の内訳は約3割が地元の観光客、約7割は香港以外の観光客ということのようで、香港への旅行客の多くが訪れる観光スポットとなっているが、ここでも日本人の来場者を見受ける事はなく、改めて、日本から香港へのアウトバウンドの課題を再認識することとなった。

館内では、世界でも指折りの中国陶磁器のコレクションや、北京の故宮博物院から貸し出された1,000点以上の貴重な美術品が展示されており、時代背景毎にカテゴリー分けされてわかりやすい館内構成となっていた。

また、立地している西九龍文化地区は、高層ビルが多く立地する香港島を目の前とした海岸線にあるため、博物館であると同時に、6階建ての建物の全ての階に展望スペースが設けられており、香港島を一望できる絶好の観光スポットという側面も有していた。視察当時も多くの来場者が訪れており、観光コンテンツとして極めて高いポテンシャルを有するとともに、仙台空港からのアウトバウンド対策としては貴重な観光コンテンツの1つであると強く感じた。

今回の視察を通じ、改めて、海外の方々における文化芸術の関心の高さを強く認識するとともに、本県のインバウンド対策においても、多賀城政庁跡や東北歴史博物館等の積極的な活用と文化芸術分野の磨き上げの必要性についても強く認識することとなった。

(19) 星光大道 (アベニュー・オブ・スターズ)

- ・日時：令和7年4月26日(土) 16時40分～17時20分
- ・場所：星光大道
- ・応対者：木邨千鶴氏
- ・調査内容：香港へのアウトバウンド政策等について

星光大道は、ハリウッドのウォークオブフェイムを参考に、九龍・尖沙咀のビクトリアハーバー沿いに約440メートルにわたって建設された都市の豊かな映画遺産と文化の活力を象徴する地域のプロムナードである。

2019年1月に改装されてリニューアルオープンし、現在では香港で最も人気のある場所になっており、香港で有名なブルース・リーの銅像やジャッキー・チェンをはじめとした香港出身の人気映画スター112名の手形等が欄干の至る所に展示されている等、440mのプロムナードは視察当時も国内外の多くの観光客で大いに賑わっていた。

このプロムナードは、海側に迫り出した歩道として整備されており、ビクトリア湾の向こう側には香港島の多くの高層ビルが立ち並ぶ等、ロケーションは抜群であり、日本では見られないスケールの大きさであった。また、入場料もないフリー公共スペースとなっており、昼のみならず夜も夜景スポットとして若い人達を中心に多くの人々が集う場所となっているとの事であり、日本からの観光客にとっても



絶好の観光スポットとして人気を博すことは言うまでもなく、仙台空港からのアウトバウンド需要創出を図る上で、外すことのできない観光スポットであると感じた。

また、このプロムナードは香港島の方まで延伸・整備中との事であり、全てを歩くとかなりの距離になるが、香港の人達にとってはむしろ喜ばれているとの事であり、多くの人達がジョギングしたり、散歩したりして楽しんでいるとの事であった。

こうした事から、本県の宮城オルレや潮風トレイル等の観光コンテンツもインバウンド対策としてかなり有用であるように感じられた。

(20) Blue Asia 社との意見交換会

- ・日時：令和7年4月26日(土) 17時40分～19時40分
- ・場所：神燈
- ・応対者：Blue Asia 社 陳榮超社長、木邨千鶴氏
- ・調査内容：宮城県へのインバウンド、香港へのアウトバウンド政策等について

香港の地元の旅行代理店である Blue Asia 社の陳社長と意見交換をし、香港における宮城県へのインバウンドの現状認識と日本人向けアウトバウンド商品の現状と課題等について率直な話を伺った。

Blue Asia 社として5月には香港から青葉祭りを見るためのツアーが予定されているとの事で、この中には香港で有名な3名のラジオDJも含まれており、海外旅行も「どこへ行くか」だけでなく、「誰と行くか」が重要な要素であるということ伺うとともに、香港の方々は観光旅行ニーズが高く、比較的滞在日数も多めの旅行を好み、同時にテーマや目的を重視しているとの事であった。

香港の観光旅行ユーザーの中には、信頼される旅行代理店に旅行先も含め全て一任する富裕層の方々も多いようで、本県としてのインバウンド推進には、本県への来訪実績もあり、宮城の良さを知り、宮城の旅行代理店等とも交流がある昨日伺ったPKG ツアー社や Blue Asia 社のような現地旅行代理店との連携は重要な要素であると強く感じた。

意見交換の中で、香港から見た宮城の魅力として、宮城オルレもその1つであり、温泉やお酒、新鮮な地元食材とともに今後も大きなアドバンテージになるとの話を伺うとともに、香港の方々は美食家が多く、日本食メニューだけに拘ることなく、日本での中華やフレンチ等、美味しいと評判の高い料理店をピックアップし、その日の気分でチョイスできるリストの充実も香港からの観光客には喜ばれるとの事であった。

また、団体旅行の客層だけでなく、自身で全てを手配し旅行するFit客層に着目することも重要で、例えば、仙台空港から南三陸を訪れ、震災からの復興に触れ、海鮮料理を堪能するといった旅程で移動費もすべて盛り込んだ1day ツアーの企画等もこれからは重要になるとのアドバイスもいただいた。

一方、日本の漫画に起因し、近い将来日本で災害が発生するとの噂が現在香港で広まっており、占いや予言を尊重する香港の国民性もこれにマッチし、現在、日本への旅行が敬遠され始めているとの事であり、今後のインバウンド推進において大きな課題となっている現状についても言及があった。現に、グレーターベイ航空が、本年5月から週4往復を週3往復に減便するとの報道がなされたところであり、

コロナの再来にも匹敵する旅行需要停滞の長期化のリスクもあることから、国への外交等を通じた正しい情報発信の要請も含め、本県のみならず広域自治体全体としての取組みとしてリスク軽減に繋がるPRを図っていく必要があると強く感じるとともに、香港から日本各地の定期便が同様な傾向であることから、こういった時だからこそアウトバウンドの充実による仙台便の継続アピールにも繋げていく必要性が高まっているとの認識も新たにしたところである。

(21) 幻彩詠香江（シンフォニー・オブ・ライツ）

- ・日時：令和7年4月26日(土) 20時～20時30分
- ・場所：幻彩詠香江
- ・対応者：Blue Asia 社 陳榮超社長、木邨千鶴氏
- ・調査内容：香港へのアウトバウンド政策等について

引き続き、Blue Asia 社の陳社長にも同行いただき、幻彩詠香江を視察した。幻彩詠香江は、2003 年の英国植民地からの中国返還を記念し、香港政府観光局が毎晩午後8時から開催されている香港の有名なディリーイベントである。また、このイベントには、多額の費用が費やされているということで、香港島側、九龍側どちらからでも港を挟んで見ることができるため、2005 年 11 月 21 日には、400 万人以上の観光客と市民が観賞に訪れ、世界最大規模のライトと音楽のパフォーマンスとしてギネス世界記録にも認定されたということであった。



視察当日は、残念ながら霧雨が降り、雲が低くなった生憎の天候であったため、午後8時から約10分間繰り広げられる光のショーは、高層部分が靄で霞み少し迫力に欠く残念な結果であったが、それでも750 万人大都市の特別行政区である香港の海岸沿いに立地する摩天楼ビル群の夜景は迫力満点であり、まさに100 万ドルの夜景という称号に相応しい必見の観光スポットであり、香港に滞在していれば海岸線のどこからでも無料で見る事ができるため、香港への誘客の最も有力なキラーコンテンツであることを確認した。

また、フリータックスで、そもそも免税の概念のない香港は、経済規模の大きい中国の中で代表する経済都市であり、かつてそうであったように観光分野のみならず本県とのビジネス面での経済連携の強化も視野に入れながら、定期便が就航する香港と交流を促進していくことを前向きに検討していく必要性を強く感じた。

・5 日目所管

今回の視察では、本県への台湾と香港からの好調なインバウンドの現状を背景に、今後も更なる交流

促進を図っていく上で、大きな課題となっているアウトバウンド対策も視察目的の1つとしている。特に、昨年12月に新規就航した仙台－香港便が現在は週11便にまで拡大しているが、今後も本路線をしっかりと維持していく上でも、こちらからの香港へのアウトバウンドを如何に増やせるかが今後の大きな課題となっており、そのためにも香港の持つ観光ポテンシャルの高さ、日本人旅行客が好む現地観光コンテンツ等を調査し、本県をはじめ仙台空港を利用する隣県も含めた観光旅行ユーザーに対して、広く周知しながら香港の魅力を発信していく戦略的な取組み等が強く求められている。

こうした観点から、今回は香港で宮城県への誘客対応実績のある旅行会社のPKG ツアー社やBlue Asia 社との意見交換をはじめ、現地の香港経済新聞社による日本と香港の交流の現状等に関する説明を受け、日本人観光客向けとして香港への誘客を図る上で、有効となるであろう4つの観光サイトについても案内をいただき、賑わいや訪問客層の現状等を確認するとともに、仙台空港からの観光旅行ユーザーに対する魅力・注目度に関する効果・検証も含め視察調査を行った。

今回訪問したどの観光スポットも、整備状況やロケーションのポテンシャルが極めて高く魅力に溢れており、どのサイトも多くの観光客で賑わっていたため、隣県も含めた仙台空港からのアウトバウンド創出のためのコンテンツとしては極めて有効であることを肌感覚で確認できた。

また、美食家が多いと言われる香港の料理は、台湾料理ほど味付けは濃くなく、日本人にも好まれる料理が多いため、食と観光地のコラボでのPRが有効ではないかとも感じた。

また、今年7月5日に日本で大地震が発生するという日本の漫画家の漫画作品の中での予言が香港各地でかなり関心が高まっている状況にあるため、香港からの日本への旅行をキャンセルする動きも始まっているとの事であり、今後の仙台空港も含めた日本の各空港への香港からの乗入れが減便することが危惧されている。現に、本視察中に仙台-香港便を運航している3社の1つであるグレーター・ベイ航空が5月13日以降に週4往復から週3往復に減便するとの報道があり、本視察後の5月8日にも香港航空が6月2日から10月25日までの間、現在の週3往復の全ての便を運休するとの報道がなされている。

香港現地では、本事象について、まさにコロナショックと同じ規模のリスクとして重く受けとめており、仙台-香港便だけに留まることなく、日本の各空港へ就航している香港便全てを対象とした今後の路線維持に向けた対応、具体的には、科学的根拠等に基づいた日本からの風評払しょくに資する取組みを国も巻き込んで展開していくことが急務である。

同時に、こういった時だからこそ、こちら側のアウトバウンドの取組みの強化が重要であり、東北観光推進機構をはじめ、旅行代理店とも連携しながら、積極的な観光PRとともに具体の観光ツアー商品の造成・充実に向けた取組みを進める等、県行政として仙台空港からのアウトバウンド施策を積極的かつ強力に進めていく必要がある。

そして、厳しい路線環境になっている今だからこそ、短期間で路線が休止となってしまったかつての反省を活かし、仙台－香港便の路線をしっかりと維持していけるよう、これまでの「受入れ」に依存する現状の観光行政から、積極的に交流を促進する「送り出す」観光行政への転換を図っていく必要がある。その結果、現在、第5期みやぎ観光戦略プランにも目標に掲げて取組んでいる「地域内外から選ばれる持続可能な観光地域づくり」の実現に大きく寄与するものと考えている。